

2021年3月28日～4月3日 各家庭でのディポーション用テキスト

■不平不満を制する訓練(3/3)

イスラエルの民は神の備えを割引したばかりか、彼ら自身のよきものを破壊することを望んだ。神は彼らの経験を注釈して、言っておられる。「彼らは……そのさとしを待ち望まなかった。彼らは、荒野で激しい欲望にかられ、荒れ地で神を試みた。そこで、主は彼らにその願うところを与え、彼らのたましいをやせ衰えさせられた」(詩篇 106:13-15 英訳)。不満が募って欲望は満たされたが、それは、彼ら自身のよきものを破壊することとなった。私たちが不平不満を募らせ、欲望を主張し、そのために「たましいがやせ衰える」ことがないように、神よ、守ってください！

不平不満は神の怒りを買う(民数 11:1)。エジプトの苦しい奴隷生活から救出され、雲と火の柱に導かれ、日々マナによって養われたイスラエルの民が、こともあろうに彼らの救い主なる神の怒りを買うようなことをするとは、いったいどういうことなのか。主は「ご自分のしもべの繁栄を喜ばれる」と記されている(詩篇 35:27)。また、主は彼らのためによりよいことを行なうことを喜ばれることが記されている。「まことに主は渴いたたましいを満ち足らせ、飢えたたましいを良いもので満たされた」(107:9)。主を信じないことによって主を失望させることがある。「信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることとを、信じなければならないのです」(ヘブル 11:6)。イスラエルについては、こう言われている。「神のみことばを信ぜず、自分たちの天幕でつぶやき、主の御声を聞かなかった」(詩篇 106:24、25)。神の怒りを買った不信仰！ 神の御声に対して彼らの耳をかたくなにしたつぶやき！

ナザレの人々については、主イエスが「彼らの不信仰に驚かれた」と記されている(マルコ 6:6)。彼らは、主の幼少時代を知っており、またその知恵と、力あるみわざについて聞いていた。しかし彼らは、「この人は大工ではありませんか」と言っていてイエスをあざけるばかりであった(3節)。主は彼らのこのような態度に対して、「預言者が尊敬されないのは、自分の郷里、親族、家族の間だけです」と言わ

ざるをえなかった（4節）。彼らのためのあわれみのみわざを不可能にした不信仰！これは荒野でつぶやいたイスラエルについても言えることではないだろうか。では私たちはどうであろう。私たちも主のご臨在を得、さまざまの約束を与えられ、備えを持っているが、はたしてどんな態度をとっているだろうか。

不平不満というものは、私たちの生まれながらの性向であるかもしれないが、満足は、私たちのキリスト者生活における主要な特徴となりうる。使徒パウロはこうあかしすることができた。「乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くしてくださる方（キリスト）によって、どんなことでもできるのです」（ピリピ4:11-13）。私は学んだ、私は心得ている、私はキリストによって何ごとでもすることができ—これが、足ることを知るようになる段階である。使徒パウロは、いよいよ地上の生活に別れを告げようとするとき、「衣食があれば、それで満足すべきです」と言うことができた（1テモテ6:8）。

不平不満を制する訓練とは、つぶやく心、心をむしばむ批判、神の怒りを引き起こす不満に背を向けて、感謝の態度をとり、薬のようによいことをする楽しい心を持ち（箴言17:22）、全能者のお心を喜ばせる信仰と賛美をささげることである。それは「いま持っているもので満足」することである。「主ご自身がこう言われるのです。『わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。』そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。『主は私の助け手です。私は恐れません。人間が、私に対して何ができましよう』（ヘブル13:5、6）。

「平安 全き平安 この罪の世にもですか」
イエスの血潮が わがうちに平安をささやく

「平安 全き平安 悲しみの迫る中にもですか」
イエスの御胸には 静けさのほか何もない

「平安 全き平安 愛する者が世を去ってもですか」
イエスに守られるなら 私たちも彼らも安らかだ